令和５年度　普及活動成果集

めざそう！ 人がそだつ・つながる農業

新規就農者のつどい

麦・大豆栽培研修会

トルコギキョウ品質調査

イチゴ就農３年以下研修会

河川敷自給粗飼料作物実証ほ

貯蔵「シャインマスカット」食味試験

福岡県飯塚農林事務所飯塚普及指導センター

令和６年３月

はじめに

農業は、県民生活に欠くことのできない食料を供給するのみならず、水源のかん養や県土の保全等、計り知れない恵みをもたらす重要な産業です。

飯塚普及指導センター管内は、古くから良食味米の産地であるとともに、近年では、麦や大豆、野菜、花き、果樹、畜産など多様な農業が営まれています。一方、農業を取り巻く情勢は、担い手の減少・高齢化に加え、資材費等の高騰、激化する気象災害や鳥獣被害など、厳しさを増しています。

このような中、普及指導センターでは、「福岡県農林水産振興基本計画（令和４年３月策定)」に基づき、活動スローガン「めざそう！人がそだつ・つながる農業」 のもと、２つのプロジェクト課題と９つの係課題に取り組んでまいりました。

この成果集は、これまでの取組のうち令和５年度までに一定の成果がみられた活動事例に加え、主な表彰やトピックスついてもご紹介いたしております。

なお、活動にあたっては、「飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会」を構成する市町・ＪＡ等の関係機関をはじめ、指導・青年農業士、女性農村アドバイザー、および部会役員等の農家リーダーなど、多くの皆さまのお力添えをいただきながら取り組んでまいりました。心から感謝申し上げます。

私たち普及指導センター職員 25 名、今後とも、飯塚地域の農業・農村の振興のため、皆さまと手を携え、行動してまいります。引き続き、普及事業へご理解とご協力よろしくお願いします。

令和６年３月

飯塚農林事務所飯塚普及指導センター長　　浦 里果

目　　次

１　普及活動の主な成果

（１）産地を守る新たな担い手の確保育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

（２）女性農業者の経営参画による担い手の育成・・・・・・・・・・・・・・ 2

（３）土地利用型作物（大豆）の生産性向上・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

（４）イチゴ農家の個別目標の設定および課題解決による産地の活性化・・ 4

（５）花きの次世代の担い手育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

（６）新たな販路に向けた新規果樹品目、品種の導入および拡大・・・・・ 6

（７）良質な自給粗飼料の生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

２　トピックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

３　各種表彰・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

４　令和５年気象・農業生産の概要

（１）気象概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

（２）農業生産の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

５　参考資料

（１）現地実証・展示ほ一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

（２）現地活動情報一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

（３）普及指導センターの活動体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

１　普及活動の主な成果

（１）　産地を守る新たな担い手の確保育成

○概要

管内でも他地域と同様に担い手の高齢化・減少が進んでいます。このため、産地の維持・発展を目指して、新たな担い手の確保育成の支援を行いました。

○対象概況

就農希望者、新規就農者（令和２～４年　44 人）

○活動内容

・就農相談を行い、希望者に対して研修先の紹介や就農関係の事業計画の策定など就農にむけて支援しました。

・施設資材費が高騰していることから就農時の投資額を低減するため、管内の関係機関と空きハウス調査を行いました。

・就農希望者の受け皿となる県認定研修機関の設立にむけ、関係機関と先進地視察や、定期的な協議を行いました。

・就農後の経営確立や相互交流を目的に、新規就農者のつどいや営農基礎講座（病害虫防除研修などの共通講座や野菜、花きの部門別研修など）を８講座９回開催しました。

空きハウス情報調査チラシ

県認定研修機関の先進地視察

○成果

１　令和５年度は 10 名の就農希望者が就農しました。

２　空きハウス情報のデータベースを構築しました。

３　新規就農者のつどい、営農基礎講座は累計 103 名の参加があり、新規就農者の栽培及び経営技術が向上しました。

営農基礎講座

○今後の取り組み

今後は、嘉麻市農家創生協議会をモデルに管内全域を対象とした県認定研修機関の設立に向けた支援を行います。また、データベース化した空きハウス情報を活用した就農支援を行います。新規就農者の確保育成にむけて関係機関と連携し継続支援します。

（２） 女性農業者の経営参画による担い手の育成

○概要

管内の基幹的農業従事者数の約 34%を女性が占めますが、認定農業者に占める女性の割合は全体の５％程度で、経営参画している女性農業者は少ない状況です。そこで、女性のさらなる能力発揮と経営参画を推進するために、研修会等により経営参画意欲の醸成を行い、女性農村アドバイザーおよび女性認定農業者の育成に取り組みました。

○対象概況

女性認定農業者 17 名、若手女性農業者 52 名、農村女性グループ員 34 名
女性農村アドバイザー９名、緑の風（女性農村アドバイザーＯＢ） ６名

○活動内容

・女性農村アドバイザーやアドバイザーＯＢ、若手女性農業者など様々な女性が集まっての農産加工や先進地視察研修会を実施し、女性同士の交流を深めました。
・女性農業者に対し、それぞれの経営課題に応じた研修会（経営者育成塾や営農基礎講座）への参加を促し、経営参画の意欲醸成を図りました。
・経営改善意欲の高い女性に対し、補助事業活用支援や所得目標達成に向けた検討会を実施し、女性認定農業者の育成に取り組みました。

女性農村アドバイザー視察研修会

○成果

１　研修会等参加者のうち２名（飯塚市、嘉麻市）が新たに女性農村アドバイザーに認定されました。
２　新たに２名（直方市、小竹町）の女性農業者が認定農業者として認定されました。

○今後の取り組み

引き続き支援対象者の掘り起こしを行うとともに、対象者の経営課題に応じた研修会による資質向上、経営参画意欲の向上を図り、女性認定農業者の育成に取り組みます。

また、女性の相互の交流、研鑽を進めることで、地域をリードする女性農業者を育成します。

（３） 土地利用型作物（大豆）の生産性向上

○概要

水田農業担い手の経営安定のためには、収量・品質の向上が不可欠です。水稲は県内でも有数の良食味米生産地で、麦類は、品種転換や適切な栽培管理により、収量・品質の安定化が図られています。

一方、大豆は、播種の遅延や雑草の多発生等により県の平均単収に比べて低くなっています。そこで、大豆の収量向上を目指し、令和２年度から重点的に、播種期の早進化による適期播種の励行、雑草防除の徹底を推進しました。

○対象概況

管内の大豆生産者　50 経営体
（ＪＡ直鞍 33、ＪＡふくおか嘉穂 17）

○活動内容

・適期播種推進のための播種前講習会　１回
・中間管理現地講習会　１回
・収穫前現地講習会　１回
・収量向上展示ほ（中間追肥）　１か所
・栽培管理情報の提供　４回

大豆の播種作業

○成果

１　早播～適期播種の重要性について部会研修会や播種前講習会、個別に啓発したことから、適期播種の意識が高まり、令和２年は 19%だった適期播種割合が、令和３、４年は 100%になりました。令和５年は、播種期に降雨が続いたため、適期播種は困難な状況でしたが、播種前の排水対策等の事前準備が徹底されたことにより、天候回復後に播種がはじまり、適期播種割合は 98%と高まりました。

２　アサガオ類等の難防除雑草の防除体系を播種前講習会や中間管理現地講習会、更に個別に指導したことで防除が徹底され、雑草による汚損粒の発生が極端に減り、大豆の乾燥調製施設での荷受け拒否が令和４年では３経営体で発生しましたが、令和５年では荷受け拒否は発生しませんでした。

３　令和５年産の収量は、10a 当たり 128kg で、昨年の約 100kg と比べると、約 30%向上しました。

○今後の取り組み

令和６年では「フクユタカ」の更なる収量・品質の向上を支援します。また、令和７年度に「フクユタカ」から「ふくよかまる」へ全面品種転換するため、関係機関と連携して、「ふくよかまる」の栽培支援を行います。

（４） イチゴ農家の個別目標の設定および課題解決による産地の活性化

○概要

「あまおう」の収量向上による産地の活性化を図るため、農家個々に課題・目標を設定し、解決・達成に向けて、課題別研修会の開催や情報の発信などの取組を行いました。

また、産地の将来の担い手となる青年農業者や新規就農者を対象に、栽培技術の早期習得を目的とした技術支援等を行いました。

○対象概況

ＪＡ直鞍イチゴ部会	21 名	5.7ha（うち就農３年以下　８名 ）
ＪＡふくおか嘉穂イチゴ部会	47 名	7.9ha（うち就農３年以下　５名 ）

○活動内容

１　経営意識の向上
- 個別目標・課題のアンケート実施
- 目標・課題の分析、明確化

２　栽培技術の向上
- 栽培技術研修会　９回
- 課題別研修会　３回
- 就農３年以下研修会　３回
- 新技術の展示ほ
  (ペンタキープ、エコロジアール)
- 栽培管理情報の発信

イチゴ栽培技術研修会

○成果

１　イチゴ生産者 68 戸のうち、55 戸が自ら目標を設定し､個々の目標達成に向けた支援を行った結果、25%の生産者が前年度対比 110%と収量増となりました。

２　就農３年以下 13 名を対象とし、アイカメラを活用した栽培講習会や、生育診断法の実習、現地巡回指導等を行い栽培技術の早期習得による単収の向上、規模拡大等が図られました。

就農３年以下研修会

○今後の取り組み

個別の課題解決に向けた支援を継続するとともに、新規就農者の栽培技術の早期習得、経営安定に向けた研修会の開催や個別面談、情報の発信などを行い、「あまおう」の収量・品質向上を図ります。

（５）花きの次世代の担い手育成

○概要

管内の若手花き生産者は、経営の安定化が課題でした。そこで、それぞれが課題を見つけ目標設定をする経営改善計画の作成支援を行うとともに、栽培に関する技術習得支援に取り組みました。また、部会などの組織に属していない場合が多く、生産技術の習得や花きに関する様々な情報収集が不十分な面があるため、お互いのほ場やハウスを見学したり情報交換を行う場を設定しました。

○対象概況

就農 10 年未満の若手花き生産者　８名

花き技術勉強会

○活動内容

１　課題及び目標設定（経営改善計画）

・経営目標策定農家数　５戸

・個別面談の実施　２回/人

・個別巡回指導　８回/人

２　経営改善活動実践支援

・花き技術勉強会　１回

・施設管理講習会（ハウスの保温対策）　１回

・現地互評会　１回

施設管理講習会

○成果

１　５戸が新たに経営改善計画（計７戸）を作成しました。講習会や現地互評会の実施等、具体的な取り組みを行ったことで３戸が目標を達成しました。

２　花き技術勉強会を実施したことで、ベテラン農家を含めた農家内の交流が始まりました。また、若手農家のＳＮＳを活用した情報交換がより盛んになりました。

現地互評会

○今後の取り組み

経営改善計画の目標未達成者に対しては、栽培指導や経営指導を継続し、栽培技術向上、経営改善を支援します。

（６） 新たな販路に向けた新規果樹品目、品種の導入および拡大

○概要

近年、管内で新たな農産物直売所が設立されたことに加え、パッケージセンター機能を有する販売先が増加するなど、販路チャンネルは多様化しています。

そこで、新たな販売先へ対応した有利販売を行うため、キウイフルーツ、カンキツの既存品目について生産量の拡大を図るとともに、新規品目や新たな販売アイテム（商品）の選定及び試験販売を実施しました。

○対象概況

ＪＡ直鞍キウイフルーツ部会　６名　1.1ha
ＪＡ直鞍かんきつ部会　　７名　1.1ha
新規品目、品種導入意向農家および直売所、パッケージセンター出荷拡大意向農家

○活動内容

１　既存品目の出荷量、栽培面積拡大
- 栽培管理講習会　２回
- 栽培暦作成（キウイフルーツ）　１品目
- ＪＡ広報誌への掲載　各ＪＡ１回
- 新規栽培希望者説明会　各ＪＡ１回

２　新規品目の検討、導入
- 新規品目検討会議　１回
- 推進計画の策定　２品目

３　直売所販売アイテムの創出
- 販売検討会議　１回
- 現地視察研修　１回
- 「シャインマスカット」貯蔵試験　２地区

「太秋」の販売コーナー

○成果

１　キウイフルーツが初めて収穫され、ＪＡ全農ふくれんＶＦ課に0.5ｔ出荷されました。
２　新規品目として、モモ、スモモを選定し、推進計画を策定しました。
３　新たな販売アイテムとして、カキ「太秋」をＪＡふくおか嘉穂ファーマーズマーケット「かほ兵衛の台所」（農産物直売所）で販売を開始しました。
４　「シャインマスカット」貯蔵試験で、年末出荷に向け有用性が確認できました。

○今後の取り組み

既存品目は、技術支援や新規栽培者への推進を継続します。また、推進計画に基づき、新規品目については、モモ、スモモの導入推進に取り組みます。貯蔵「シャインマスカット」の本格販売に向け、再試験や関係機関との協議を行います。

（７）良質な自給粗飼料の生産

○概要

自給粗飼料の生産は、穀物の国際相場や輸入牧草価格の変動に左右されず、畜産経営のコスト低減や安定化に寄与します。そこで令和４年から良質な自給粗飼料の生産に向け、イネ科牧草であるイタリアンライグラスの粗たんぱく質含量が 10%以上（乾物中%）となるよう支援を行いました。

○対象概況

飯塚農林事務所管内の酪農家　18 戸
　うちイタリアンライグラスを作付　11 戸

○活動内容

１　イタリアンライグラス収量調査　10 か所
２　飼料成分の分析　10 か所
３　実証ほ場の設置と講習会・現地指導
・播種時期や収穫時期の違いによるイタリアンライグラスの収量や栄養成分について、実証ほ場を設置。
・講習会の開催、品種選定や肥培管理等の現地指導。

○成果

１　令和４～５年で５戸が粗たんぱく質含量 10%以上を達成。

○今後の取り組み

未達成者には関係機関と連携しながら目標の達成に向けて引き続き支援を行います。

河川敷草地のイタリアンライグラス（小竹町）

イタリアンライグラス粗たんぱく質含量（乾物中%）

農家	R4	R5
A	9.8	13.1
B	－	9.1
C	8.9	9.9
D	5.6	9.3
E	14.2	8.7
F	8.6	9.4
G	6	5.7
H	8.8	12.1
I	12.3	－
J	14.3	11.5
K	5.5	8.2
管内平均	9.4	9.7
県平均	9.2	9.2

※分析は県農林業総試の近赤外検量線による
※県平均は県農林業総試調べ

２　トピックス

（１）経営者育成塾「ビジネスプランを作成しよう」

普及指導員によるビジネスプラン作成支援

飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会（以下「担い手協議会」という。事務局：飯塚普及指導センター）では、農業経営の改善に意欲的な農業者を対象に、今後の経営ビジョンや経営戦略等を記載したビジネスプランの作成を行う「経営者育成塾」を開催しました。

塾では、専門家による経営管理のポイントや人材育成等の講義、卒業生によるビジネスプランを活用した経営改善の体験談などを行い、塾生は自らの農業経営についてのビジネスプランを作成しました。

塾生からは、「経営方針や経営改善の決意を新たにした」「ビジネスプランを作成して、自分を見直す良い経験になった」、「やるべき事が見えてきた」等の声が聞かれました。

○今後の取り組み

「経営者育成塾」は、今年で５回目となり、これまでに 17 名がビジネスプランを作成しました。今後も、関係機関と連携し、ビジネスプランの作成及び実現に向けた支援を行っていきます。

（２）雇用研修会を開催

雇用研修会

担い手協議会主催で、雇用を導入及び導入意向のある農家を対象に、雇用研修会を開催し、関係者も含めて 26 名の参加がありました。

管内の雇用労力確保の実態について説明した後、社会保険労務士である生田千年雄氏が「雇用を導入するにあたり、注意が必要なポイントについて」講演しました。「雇用は忙しくなってから考えるのでは遅く、計画と準備が重要」という内容で、参加者からは、「雇用を導入する際にやるべきことの順番」や「雇用のチラシに何を書くべきか」など、参考になったという声が多く、雇用導入への理解が進みました。

○今後の取り組み

今後も関係機関と連携して、雇用導入推進のための研修会を行うなどして農家の経営発展を支援していきます。

（３）イネカメムシ大量発生でも防除実施で被害軽減

イネカメムシ

ＪＡふくおか嘉穂管内では、令和４年産の早期水稲と飼料用米で、イネカメムシの被害が初めて確認されました。一部ほ場で不稔籾が多発し、10a 当たり収量が 60kg 以下と激減したり、玄米の検査等級が斑点米により規格外や３等となる等、大きな被害が発生しました。

そこで、令和５年産水稲栽培こよみの斑点米カメムシの防除薬剤を変更するとともに、防除時期を出穂期頃と穂揃期頃の２回に変更し、講習会や水稲の管理情報で防除の徹底を促しました。その結果、令和５年産の水稲では、イネカメムシの発生地域は拡大したものの、不稔籾発生被害及び、斑点米による検査等級の格落を極端に減らすことができました。

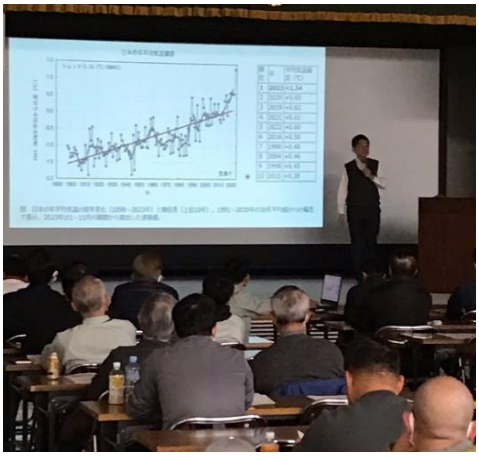
イネカメムシによる不稔籾多発ほ場

○今後の取り組み

令和５年産の飼料用米では、管内全域での防除徹底には至らず、10ａ当たりの収量が 60～120kg/10a 少なくなった地域がありました。令和６年産の飼料用米については、防除の徹底を促します。

（４）麦の優良事例と温暖化に負けない農業生産を学ぶ

担い手協議会主催で水田農業技術研修会を開催しました。令和５年度福岡県麦作共励会の集団の部で、優秀賞（県知事賞）を受賞した「ニューアグリかいた合同会社」が、「大麦の多収を目指して」と題して、会社の麦づくりの取組について、優良事例を発表されました。



基調講演

また、基調講演は、ＲＫＢ毎日放送の気象予報士である龍山康朗氏を講師に、「これまでの温暖化と今後の対応」と題して、温暖化のメカニズム、気象災害に対して命を守るために行う具体的な方法、そして今年の夏の

予報について講演されました。農業生産にとって、気象は非常に重要な要素であり、令和５年が観測史上まれにみる高温年で、農作物の品質低下が大きかったことから、生産者は熱心に講演に聞き入っていました。

○今後の取り組み

関係機関と連携して、地球温暖化に対応できるような生産技術の検討や品種、品目の選定等、安定的な農業経営が営まれるよう支援を行います。

（５）「あまおう」の土壌還元消毒による萎黄病低減

管内いちご生産において問題となっている萎黄病は、糸状菌によって引き起こされ、土壌伝染と苗感染によって広がる難防除病害です。近年、人体と環境にやさしい土壌消毒の方法として注目されている土壌還元消毒は、有機物と水を土壌に混入後、ビニル被覆し密閉状態を作ることで、土壌微生物の呼吸により還元状態を作り、病原菌を死滅させるものです。

消毒中のハウス内

今回、有機物として低濃度エタノール（商品名：エコロジアール）を用いた土壌還元消毒を行ったところ、糸状菌に対する高い死滅効果が確認でき、萎黄病の発生を低減できました。また、複合的な効果として大量の水を入れたことで、除塩効果も確認できました。

○今後の取り組み

今回の調査結果を基に、人体と環境にやさしい土壌処理方法として、講習会等で当技術の普及を図ります。

（６）リンドウの現地栽培検討会・新規生産者説明会を開催

管内のリンドウ生産者及びリンドウ生産を検討している花き生産者を対象として現地栽培検討会を５月と９月に開催しました。

普及指導センターからは、リンドウの栽培管理、病害虫対策のポイントを説明し、管内で取り組んでいる彼岸出し新系統の現地試験結果などを紹介しました。

現地栽培検討会

栽培管理などに関する質問が多く出されるとともに、参加者同士で活発に意見交換がなされ、充実した検討会となりました。

また、11 月には新たにリンドウをつくってみたい方向けに説明会を開催しました。栽培管理の基礎や、飯塚地域で栽培されている品種の特性などを紹介しました。来年度から新たに栽培を開始される生産者も現われ、有意義な説明会となりました。

新規生産者説明会

○今後の取り組み

リンドウの産地化を目指して、新規生産者への栽培管理支援や、品質向上を図るための情報提供などを実施します。

（7）サカキの新害虫「サカキブチヒメヨコバイ」の発生消長と防除対策

管内は県内有数のサカキの産地です。

３年前から葉に白い斑点が多数発生し、品質の低下が問題となっていましたが、令和５年５月に新害虫「サカキブチヒメヨコバイ」の吸汁跡であることが判明しました。

サカキブチヒメヨコバイと被害葉

普及指導センターは、飯塚管内の４か所で被害状況を調査し、いずれの地域でも発生を確認しました。そこで、山間地のサカキほ場に、粘着トラップを設置して、その捕獲数を月２回調査した結果、年間に２～３回の発生ピークがあることが判明しました。また、防除を行ったほ場では、無防除のほ場と比較して害虫の発生量が激減し、白い斑点の被害が軽減できました。

そこで防除方法や風通しを良くする剪定を推進するチラシを作成し、生産者や直売所へ配布しました。

○今後の取り組み

引き続き発生消長の調査を行い防除適期の情報提供を行います。また、この害虫の特徴や防除対策について研修会の開催や広報誌などで周知をとおして、高品質安定生産を支援します。

（８）ＪＡふくおか嘉穂ぶどう部会でシャインマスカット品評会を初開催

シャインマスカットの審査

普及指導センター及びＪＡふくおか嘉穂ぶどう部会は、近年栽培面積が増加しているシャインマスカットの栽培技術と生産意欲向上、そして嘉穂地区のシャインマスカットブランドの向上を目的として初めてシャインマスカット品評会を開催しました。

10 名の生産者がシャインマスカットを出品し、外観や食味等の８項目について、部会員や関係機関の職員で審査を行いました。審査の結果、外観や１粒あたりの重さが優れていた嘉麻市の遠藤猛氏が最優秀賞を受賞しました。他の部会員が栽培したシャインマスカットの房型を見たり、味わったりする機会となり、栽培方法を尋ねるなど部会員間で活発な意見交換が行われました。

○今後の取り組み

参加者の意見や運営上の反省点を踏まえ、次年度も品評会を実施し、さらなる栽培技術やブランドの向上を目指します。

（９）耕畜連携による飼料用トウモロコシ作付け拡大

生育中の飼料用トウモロコシ

令和３年から続く飼料価格高騰が畜産経営を圧迫しています。そこで、酪農家が飼料費の低減のために耕種農家と連携して飼料用トウモロコシの生産を開始しました。

令和４年に嘉飯桂地区の耕種農家２戸が 2.1ha の作付面積で開始し、令和５年には耕種農家３戸で 25ha と飛躍的に拡大しました。

播種から防除（播種後１か月程度）までの作業を耕種農家が、収穫作業以降は酪農家が行い、耕種農家から買い上げます。その後飼料用トウモロコシを酪農家がホールクロップサイレージ（子実と茎葉を含む作物全体を刈り取って細断し、サイレージに調製したもの）に調製し、乳牛に給与しています。

専用収穫機による収穫

○今後の取り組み

畜産経営の生産コスト低減や経営安定化に寄与する自給飼料の生産を今後も支援します。

３ 各種表彰

各種表彰（国・県）一覧

表彰事業名	受賞者 （敬称略）	受賞内容	市町名
農山漁村女性活躍表彰（全国）			
女性地域社会参画部内（個人）	長野　路代	審査委員特別賞	飯塚市
福岡県農業指導功労者表彰	安田　克徳	受賞	宮若市
令和５年度福岡県麦作共励会			
集団の部	ニューアグリかいた合同会社	優秀賞（県知事賞）	飯塚市
令和５年度福岡県花き品評会			
技術・ほ場の部			
トルコギキョウ	貞光　孝宏	花あふれるふくおか推進協議会長賞	直方市
	有吉　博文	全国農業協同組合連合会福岡県本部長賞	宮若市
夏秋咲きギク			
露地の部	淀川　貴浩	九州花き卸売市場連合会長賞	飯塚市
産物の部			
枝もの	安田　一平	福岡県知事賞	宮若市
第４回福岡県肉用種牛共進会			
若雌第２区（17 ヵ月齢～20 ヵ月齢）	（株）髙手牧場	最優秀賞１席（県知事賞）	嘉麻市
第 30 回福岡県 B&W ショー（乳牛共進会）			
第 10 部	糸島・飯塚支部	名誉賞	―

飯塚市　長野路代氏

農山漁村女性活躍表彰審査委員特別賞を受賞

受賞した長野路代氏

飯塚市内野で長年にわたり農産加工品づくりに取り組んでいる長野路代氏が、農山漁村男女共同参画推進協議会が主催する農山漁村女性活躍表彰審査委員特別賞を受賞されました。

長野氏は、昔ながらの伝統的な農産加工品を製造する「野々実会」を 30 年以上前に設立されました。それ以降、加工品の製造・販売を行いながら、地元の伝統的な料理技法などを体験できる地域イベントの開催など、食の伝統の普及継承活動に取り組んでこられました。

今回の受賞は、長年にわたる農業分野での貢献と現役で活動を継続されていることに対して敬意を表されたものです。

宮若市　安田克徳氏

福岡県農業指導功労者表彰を受賞

受賞した
安田克徳氏

安田克徳氏が、福岡県農業指導功労者表彰を受賞されました。

本表彰は、農業青年の育成確保活動等に熱心に取り組み、福岡県の農業の持続的な発展に大きく貢献した農業指導者を表彰するものです。

安田氏は、長年にわたり、指導農業士として４Ｈクラブや青年農業士の活動を支援すると共に、さらに、就農希望者を積極的に受け入れ、栽培技術やマーケティング等の指導や就農支援の活動に尽力されたことが評価されました。

飯塚市　ニューアグリかいた合同会社

令和５年度福岡県麦作共励会の集団の部で優秀賞を受賞

受賞された仲野代表(右)
同社社員立川氏(左)

ニューアグリかいた合同会社は、令和５年度福岡県麦作共励会の集団の部で、優秀賞（県知事賞）を受賞されました。

排水対策に加え、踏圧・土入れ、雑草防除、赤かび病防除等の基本技術を励行し、大麦作付ほ場を１つの団地に集約する等、高品質な大麦生産に取り組み、今年度は 10a 当たり収量が 529kg と、県平均の 392kg を大きく上回りました。

今後も経営面積の拡大を図る予定で、飯塚市口原地区、勢田地区の主要な担い手として、より一層の活躍が期待されます。

宮若市　安田一平氏

令和５年度福岡県花き品評会「産物の部」で県知事賞を受賞

安田一平氏と「ニシキギ」

安田一平氏が、出品したニシキギで県知事賞を受賞されました。

福岡県花き品評会は、花あふれるふくおか推進協議会が主催し、花きの生産の振興を目的に、優れた出品物を生産した生産者を表彰しています。

安田氏は、山林を活用した切り枝と花木の周年出荷を行っています。出品されたニシキギは生花の花材として使われる枝物で、草丈が長く、枝付きの多さと趣がある点が評価されました。

嘉麻市　株式会社髙手牧場

第4回福岡県肉用種牛共進会で最優秀賞1席を受賞

最優秀賞１席
「きたさやか号」

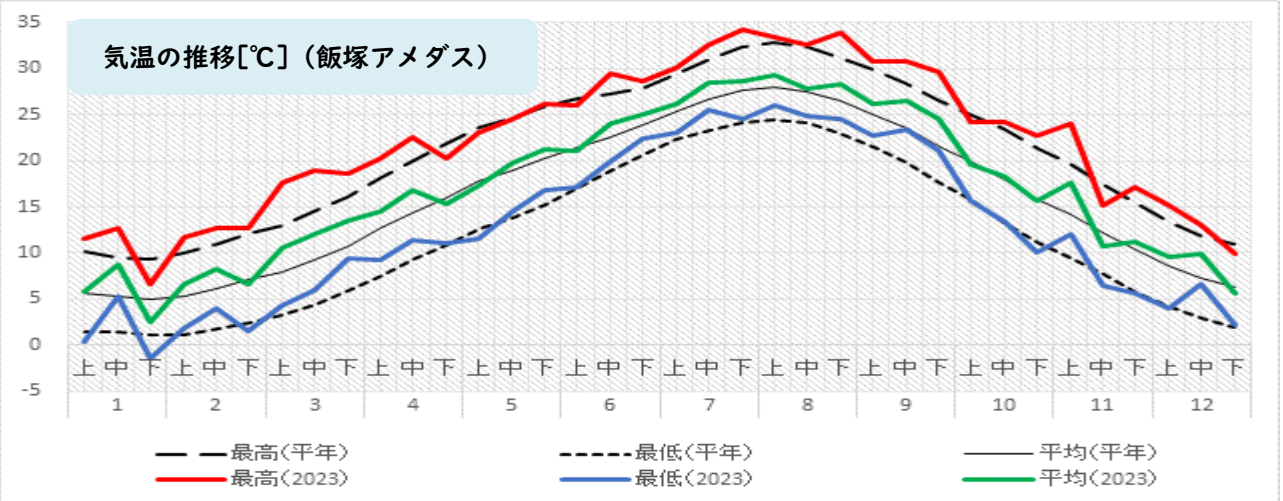
黒毛和種の育種改良と繁殖農家の改良意欲の向上、安定した和牛繁殖経営の実現を目的に、第４回福岡県肉用種牛共進会が福岡県農業大学校のグラウンドで開催され、県内から若雌第１区（12 カ月齢～16 カ月齢）の部に７頭、若雌第２区（17 カ月齢～20 カ月齢）の部に 12 頭の出品がありました。

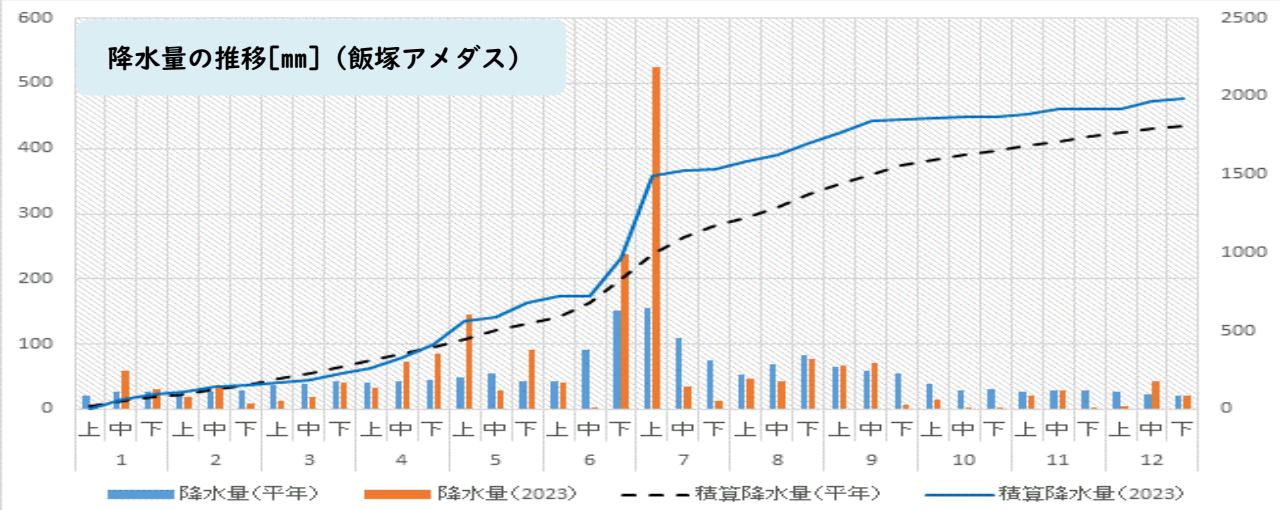
審査の結果、第２区の部において嘉麻市の（株）髙手牧場が出品した「きたさやか号」が、牛体のバランスの良さ、牛体の前中後躯の力強さ、繁殖雌牛としての品位などが評価され、最優秀賞１席（県知事賞）を受賞されました。

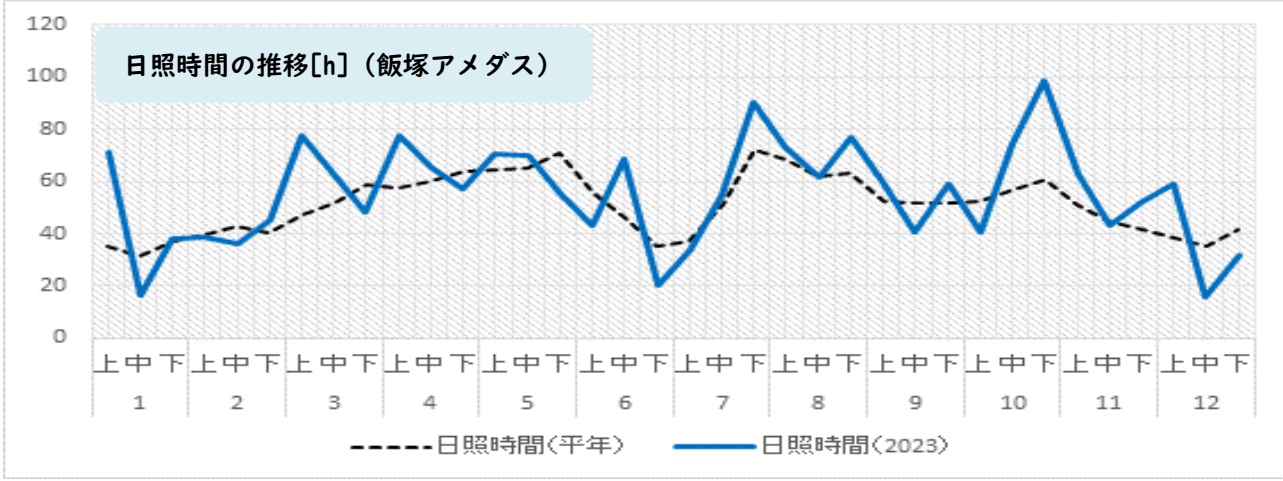
４　令和５年気象・ 農業生産の概要

（１）気象概況

気温は、1年を通じ、高温傾向で推移しました。特に、9月下旬から 12 月中旬までの高温（平均で＋1.1℃）が特徴的でした。降水量は、9月中旬までは定期的な降雨があったことと、5月上下旬、6月下旬から7月上旬にかけてまとまった降雨があったことで、年間積算では平年よりやや多くなりました。一方で、9月下旬から年末にかけては、降雨が少なく、乾燥傾向で推移したため、主に露地品目に乾燥の影響が出ました。梅雨入りは5月 29 日ごろ、梅雨明けは7月 25 日ごろでした。日照量は、概ね平年並でした。







＜気象災害＞

令和５年は１月 24 日から３日続けて最低気温－４度以下を記録し、イチゴ無加温ハウスでは花蕾の凍害、ミツバチ放花不良による奇形果の発生等の被害が生じました。その後、５月上旬には強風雨で麦の倒伏、６月下旬には大雨による大豆の播種遅延等が確認されました。最も被害が大きかった７月中旬の大雨では、水稲・花きの冠水、ブドウの裂果等の被害に加え、イチゴ育苗施設や酪農施設への土砂流入による被害も発生しました。

普及指導センターでは豪雨の発生、台風の接近、寒害・雪害などの発生が予想される時には、技術対策情報を生産者や関係機関あてに発信し、災害発生の軽減に努めました。

今年発生した主要な気象災害（表１）および技術対策情報（表２）は以下のとおりです。

表１　主な対象災害と影響（令和５年）

時　期	種　類	影響
１月 24 日 ～26 日	寒害 最低気温－4.1 度	・イチゴ：花蕾の凍害１ha 被害程度 小 ：ミツバチ放花不良３ha 被害程度 小
５月６日 ～７日	強風雨 日積算降雨量 79.5mm/日	・小麦：倒伏 215ha　被害程度 小～中 ・大麦：倒伏 40ha　被害程度 小～中
６月 30 日 ～７月３日	大雨 日積算降雨量 113.5mm/日	・大豆：播種遅延 370ha ・アスパラ、露地キク等：冠水 0.4ha 被害程度 微～小
７月７日 ～10 日	大雨 日積算降雨量 199.0mm/日	・水稲：冠水 80ha 被害程度 微 ・トルコギキョウ、ケイトウ等：冠水 0.08ha 被害程度 微 ・ブドウ：裂果 ２ha　被害程度 中 ・イチゴ：育苗施設への土砂流入 １戸 ・酪農：施設内への土砂流入、 屋根破損等 １戸

※温度や風速の数値は全て飯塚アメダスデータを利用

※被害面積・件数は普及指導センター調べ

表２　普及指導センターから発信した技術対策情報（令和５年）

発信日	内容
１月 20 日	農作物等の寒害及び雪害の被害防止に向けた技術対策
４月 19 日	低温に伴う農作物等の技術対策
５月 25 日	高温に伴う農作物等の技術対策
５月 31 日	台風２号接近に伴う農作物等の技術対策
６月 30 日	梅雨期の大雨に対する農作物等への技術対策
７月６日	６月 29 日及び７月２日からの大雨後における農作物等に対する技術対策
７月 14 日	７月 16 日頃からの高温における農作物等に対する技術対策
８月３日	台風６号接近に伴う農作物等の技術対策
12 月 19 日	農作物等の寒害及び雪害の被害防止に向けた技術対策

（２）農業生産の概況

＜普通作＞

○早期水稲は平年並～やや多収、普通期水稲はやや低収～平年並で、上位等級比率は低迷

早期水稲は、移植後に平年より気温が高く推移したため、生育は順調に進みました。しかし、平年と比べて梅雨入りが６日早く、６月下旬～７月中旬の日照時間が少なかったため、茎数、穂数ともやや少～平年並となりました。梅雨明け後は、高温多照となり、出穂・成熟期が平年より早まりました。収量は地域により異なり、平年並～やや多収でした。

普通期水稲は、６月下旬～７月中旬の多雨、日照不足により茎数、穂数がやや少なく、収量は「夢つくし」では平年並～やや低収、「元気つくし」、「ヒノヒカリ」では、やや低収となりました。検査等級は、高温の影響による品質低下が顕著でした。

昨年、嘉飯桂地域を中心に多発したイネカメムシは、防除の徹底により、主食用米での被害を抑えることができました。紋枯病は高温の影響で多発し、一部のほ場では坪枯れが発生しました。

紋枯病による枯死株

○令和５年産麦は、５年連続の豊作

播種は、11 月中旬に始まりほぼ適期に播き終わりました。平均気温が平年と比べて高く推移したことから、生育は順調に進み、出穂、成熟期は早まりました。収量は、平年より多く、大麦、小麦とも多収となりました。品質は、いずれの品種も１等が中心と良好でした。

○多収が見込まれる大豆

６月下旬以降、降雨が続いたため、大豆の播種は７月 20 日頃が中心になりました。播種後に適度な降雨があったことから、出芽は良好でした。８月以降も適度な降雨と高温多照により、生育は良好で、着莢数は多くなりました。しかし、子実肥大期の 10 月が少雨で、干ばつ気味となったことから、中粒が中心となりました。台風の襲来や強雨がなかったことから、倒伏の発生は少なく、10a 当たり収量は昨年より約 30%増収しました。

生育が旺盛な大豆

＜野菜＞

○育苗期の高温により、炭疽病の多発と普通作型の花芽分化が遅れたイチゴ

育苗期は、高温によるかん水量増加の影響で、根傷みが多く発生しました。また、普通作型の花芽分化が遅れ、主に９月 28 日以降の定植となりました。病害では、炭疽病が多発し、苗不足となりました。

定植後は、炭疽病による枯死やヨトウ類の加害が年末まで発生しました。２番果房は順調に分化し、出荷は 11 月上旬から始まりましたが、定植遅れに加え、10 月の乾燥の影響によって展葉速度が遅く、年内出荷量は、前年比 83%となりました。しかしながら、１月に入り普通作型がピークを迎え、１月中旬までの出荷量は、前年比 96%となりました。

先進地視察研修

○大雨、高温の影響を受けた夏秋なす

定植は５月上旬を中心に行われましたが、生育初期は乾燥のため、生育は緩慢でした。

その後、６月下旬～７月上旬の大雨、日照不足により花落ちや褐色腐敗病が発生するとともに、８月上旬には台風接近のため、葉傷や枝折れ、傷果等が発生しました。以後は徐々に回復し、９月上旬収穫のピークを迎えたものの、収穫量は前年比 83%、単価は同 111%となりました。

出荷時の夏秋ナス

○夏季の高温や病害虫対策に苦労したアスパラガス

令和５年産の低温要求達成はやや遅くなりましたが、平年並みの２月上旬出荷開始となりました。３月は気温が高く、晴れた日が多く、収穫は順調に進み、春芽の収量は昨年比で 127%と増加しました。

８月は異常高温が続き、若茎の穂先の開きや細芽などの異常茎の発生が見られました。

病害虫に関しては、大雨時のハウス閉めこみによる多湿や防除の遅れにより、一部のほ場で、斑点性病害が早期から発生しました。また、９月以降には全般的にヨトウムシ類の被害が多くなりました。

高温対策で寒冷紗を被覆したハウス

＜花き＞

○出荷数量が減少傾向の露地ギク

６月の定植期から気温が高く推移した影響で生育は前進化し、７～８月出荷の作型は出荷が早まりました。また、梅雨時期及び９月上～中旬に降雨量が多かったことで、病気に弱い品種を中心に斑点細菌病の発生が目立ちました。

高齢化により作付け規模を縮小する生産者が多く、出荷数量は減少傾向が続いています。販売単価は、６～10 月を通してほぼ前年並となりました。

発蕾した露地ギク

○高品質で出荷されたケイトウ

５月下旬から６月上旬の定植後に発生した集中豪雨により、ほ場には大量の土砂が流入しました。このため、一部のケイトウが倒伏したり、茎が曲がったりするなどの被害を受け、品質が低下しました。しかし、７月下旬からは好天が続き、適度な降雨にも恵まれたため、品質が向上しました。さらに、当該期のケイトウは需要が旺盛で、市場では高値で取引されていました。このため、前年度を上回る高単価で販売することができました。結果として、一部品質低下があったものの、全体としては前年度以上の収益を上げることができました。

収穫直前のケイトウ

○高温で前進開花した、高品質なトルコギキョウ

７～８月定植の作型では、９月の気温が平年より高く推移し、生育が早まり開花が前進化しました。一部、高温の影響で花弁数の減少や、やや軟弱化した品種がありましたが、コナジラミやヨトウムシ類の被害は例年より減少しました。出荷ピーク時期には、高品質なものが順調に出荷されました。また、需要も多く、高単価で販売されました。

収穫中のトルコギキョウ

＜果樹＞

○結実良好であった一方、高温、着果過多の影響で着色不良が目立ったブドウ

トンネル、露地栽培での発芽・展葉は３月 30 日頃、満開日は５月 22 日頃であり、いずれも前年より１日程度早くなりました。

本年は開花期の天候に恵まれ、結実は概ね良好でしたが、露地の開花が早い園については、一部単為結果が発生しました。

糖度、酸度等の果実品質は良好でしたが、結実の良さが着果過多につながったことや、６月の夜温が高かった影響により、「巨峰」等では着色不良が目立ちました。また、一部の園で５月からべと病の発生がみられましたが、裂果の発生は少なく、平年並みの収量が確保できました。

着色不良の果房

○小玉果や軟熟果の発生により、出荷数量がやや少なかったカキ

「富有」の満開期は５月 13 日と昨年より４日程度早くなりました。着蕾は平年よりやや多かったものの、種入りは少ない傾向であったため着果数は平年並となり、果実肥大は梅雨明け以降の乾燥傾向の影響により不良でした。

また、夏季以降フジコナカイガラムシの被害果が増加し、収穫開始当初は軟熟果の発生もみられたため、出荷数量は昨年を下回りました。

○順調な出荷となったイチジク

３月の気温が高かったため、露地栽培の発芽は４月８日と昨年よりも４日程度早くなったものの、着果開始日は前年並みでした。

成熟期の高温乾燥傾向の影響で、一部施設では収穫初期に成熟異常果の発生もみられましたが、着果や新梢伸長、果実肥大は概ね良好であり、目立った病害虫の発生もなかったため、昨年よりも品質は高く、出荷量も多くなりました。

イチジク「とよみつひめ」

○小玉傾向と黒星病の発生により、出荷量が減少したナシ

開花前が高温傾向であったため、「幸水」の満開期は４月３日頃と昨年、平年に比べて４日程度早くなりました。結実は平年並み程度でしたが、全体的に着果過多傾向であったため、果実肥大は、「幸水」、「豊水」ともにやや小玉傾向でした。

また、生育初期に降水量が多かった影響により、一部の園で黒星病が多発し、出荷量は昨年よりも減少しました。

＜畜産＞

○飼料価格等の高止まりが続き、酪農経営の圧迫と出荷乳量減少が継続

担い手の高齢化、後継者が不足する中、令和５年は生産資材価格や飼料価格が高止まりのまま推移し、この影響を受け、管内の飼養戸数※1は 18 戸（昨年比５戸減）、飼養頭数※2は 1,004 頭（昨年比 127 頭減）に減少。このため、令和５年の生乳出荷乳量※3も、前年よりさらに減少し、854ｔ減の 5,594ｔとなりました。

また、牛乳の消費低迷も続くなか、令和５年の乳価は、４月改定で３円／kg 引上げ後、期中改定交渉により８月から、さらに７円／kg 引上げがありました。

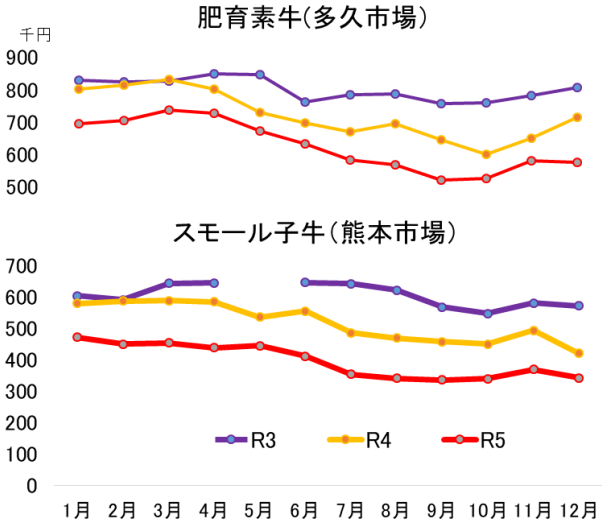
（※1、※2、※3はふくおか県酪協調べ）

○黒毛和種繁殖雌牛の飼養頭数は県内トップ、しかし子牛価格は下落が続き、経営を圧迫

管内では、和牛繁殖雌牛の飼養頭数が増加しています。令和５年の飼養戸数は 29 戸、飼養頭数は 1,072 頭（県全体の 35%）となりました。

一方、和牛子牛の市場価格は、肥育素牛（８～９か月齢）やスモール子牛（３～４か月齢）ともに３年連続して下落しました。

くわえて、近年の生産資材の高騰、配合飼料や購入粗飼料価格の高止まりの影響が、黒毛和牛繁殖農家の経営を圧迫しました。

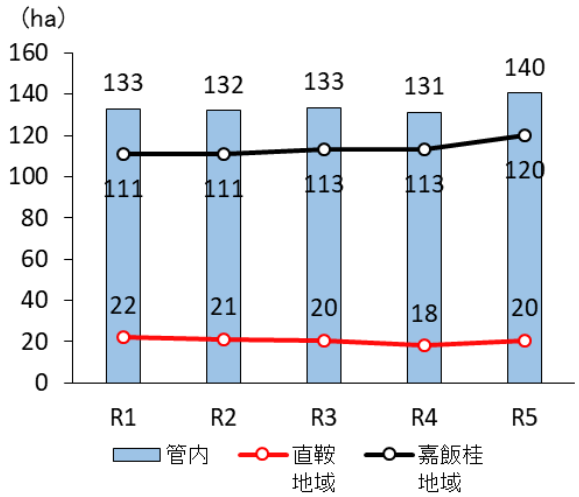


黒毛和種子牛の市場価格の推移

○飼料用イネの作付面積はわずかに増加

管内では、飼料用イネとして糖分が茎葉に蓄積されて、牛の嗜好性や消化率が高くなる極短穂型（穂が短く籾の収量が少ない）品種を推奨しており、「つきすずか」等を中心に作付けされています。

飼料用イネの作付面積は、平成 30 年からほぼ横ばいで推移していましたが、令和５年はわずかに増加して 140ha となりました。



飼料用イネ作付面積の推移

５　参考資料

（１）現地実証・展示ほ一覧

No.	品目	課　題　名	結　果　の　概　要	場所
1	水田農業	早期水稲での雑草多発田における防除体系の確立	入水から代かき、移植までの期間を短くすることで、初中期除草剤処理時の雑草の葉齢を低く抑えることができた。また、畦畔からの漏水を防いで除草剤処理後の湛水期間を長くすることで、雑草の発生量を低減できた。	飯塚市
2		小麦「ちくしＷ２号」のタンパク質含有率向上対策	ドローンで撮影した画像情報を活用し、収量の多少を推定できた。また、多収ほ場でのタンパク質含有率向上を目的とし、穂揃期追肥を 20%増肥したが、タンパク質含有率は、0.1%の増加に留まり、さらなる増肥の必要性が示唆された。	鞍手町
3	野菜	「ロコトトウガラシ」の現地適応性	新たな地域ブランド候補品目として、自家受粉で容易に結実する「ロコトトウガラシ」の現地適応性を調査した。５月の定植以降、夏季の高温により着果不良や枯死が発生し、現地適応性は低いことが明らかになった。	宮若市
4		アスパラガスの茎葉管理の違いが夏芽の生育に及ぼす影響	生産者ごとの茎葉管理状況を調査したところ、適期に二次側枝の除去を行い、病害虫防除を徹底し、採光性が良好なほ場で夏芽の収量が確保された。	飯塚市 嘉麻市
5	花き	秋出しトルコギキョウの大苗定植による品質向上と土壌水分管理技術のの確立	大苗は慣行苗と比べ、切り花長が長くなった。また、優良ほ場における土壌水分管理データの見える化を行い、PF 値が定植から活着までは 1.8 以下、頂花発蕾からは最高で 3.0 まで上昇し、開花輪発蕾からは 2.6 以下で推移していたことを確認した。	宮若市 直方市
6		有機物施用がシャクヤクの品質へ及ぼす影響	竹チップ牛糞堆肥の施用区と、慣行の鶏糞堆肥施用区を比較したところ、萌芽数は同程度であった。次年度の５月の開花期に品質、収量調査を実施予定。	宮若市
7		リンドウにおける９月出荷作型の確立	県オリジナル品種「Y-E」（彼岸出し）について、現地適応性を調査したところ、「Y-E」は、切花長が長く、花段数も多いなど、品質面で評価が高かった。しかし、収穫時期が彼岸の出荷適期より 10 日以上早くなった。	嘉麻市
8	果樹	ブドウ「シャインマスカット」の貯蔵試験	フレッシュホルダー（給水管）による給水と植物成長調整剤による熟期遅延効果により、12 月まで一定の品質を保持した状態での貯蔵が可能であることを確認した。次年度、貯蔵労力の軽減を目指した再試験や試験販売を実施予定。	鞍手町 飯塚市
9		ナシ「玉水」の果実調査	既存品種の「幸水」よりも肥大が劣ることを確認。 次年度以降、肥大向上技術の確立・普及を図る。	嘉麻市
10	畜産	水田における夏作飼料作物の検討	スーダングラスは乾物収量が 832kg/10a、粗タンパク質（CP）含量は 7.1%、テフグラスは乾物収量が 280kg/10a、CP 含量は 10.4%であった。これらの草種では収量と CP 含量大きく異なることから、目的にあった選定と栽培が重要である。	飯塚市

（２）現地活動情報一覧

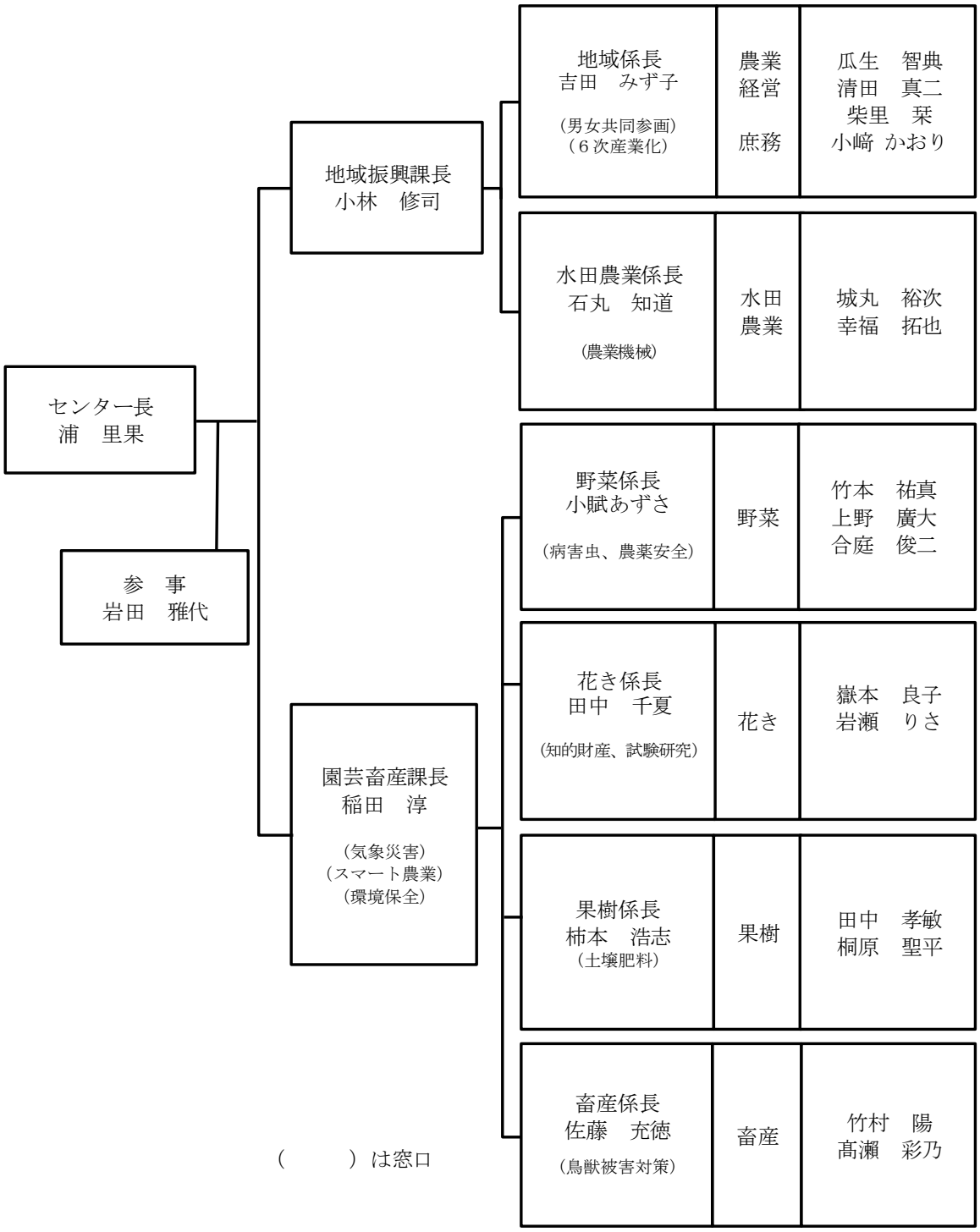
No.	タイトル
1	地元小学生がスイートコーン栽培を体験
2	花きの若手生産者に向けた病害虫講習会を開催
3	夏秋なす産地の活性化
4	営農基礎講座「病害虫と農薬の基礎知識」を開催
5	飯塚地域新規就農者のつどいを開催
6	飯塚地区農村女性グループ研究会が農産物活用研修会を開催
7	土づくりと施肥研修会を開催
8	営農基礎講座野菜部門（いちご）の開催
9	飯塚管内農業関係高校等との情報交換会を開催
10	飼料用米品種「みなちから」の栽培現地講習会開催
11	ＪＡ直鞍で果樹新規栽培希望者説明会を開催
12	ＪＡふくおか嘉穂ぶどう部会でシャインマスカット品評会を開催
13	経営者育成塾の開催
14	飯塚地区高校生農業セミナーを開催
15	第２回リンドウ現地検討会を開催
16	第１回いちご生産者研修会の開催
17	ファーマーズマーケット「かほ兵衛の台所」でカキ「太秋」の販売開始
18	イチジク「とよみつひめ」栽培を始めませんか？
19	令和５年産トマト現地互評会を実施
20	JA 直鞍麦作・大豆部会生産者大会を４年ぶりに開催

No.	タイトル
21	営農基礎講座野菜部門（いちご）第２回講座
22	第４回福岡県肉用種牛共進会で最優秀賞１席を受賞！
23	第２回若手花き技術研修会を開催
24	筑豊花き生産者連絡協議会トルコギキョウ研究会が現地研修会を開催
25	福岡県 B&W ショー（乳牛共進会）開催！
26	トルコギキョウ新品種展示に全国から参加
27	冷蔵ガキの出荷開始！！
28	正確な記帳が経営を改善する
29	JA 直鞍アグリ土づくりセンターで堆肥を学ぶ！
30	冷蔵シャインマスカット試食会を実施
31	集落営農組織におけるインボイス制度研修会の開催
32	筑豊地区農業青年等合同発表大会の開催
33	経営発展を目指して雇用研修会の開催
34	営農基礎講座野菜部門（いちご）第３回の開催
35	飯塚地区農村女性グループ研究会が農業機械研修会を開催

（令和６年２月発行まで）

（３）普及指導センターの活動体制

○課係体制



○班活動の体制

・プロジェクト班

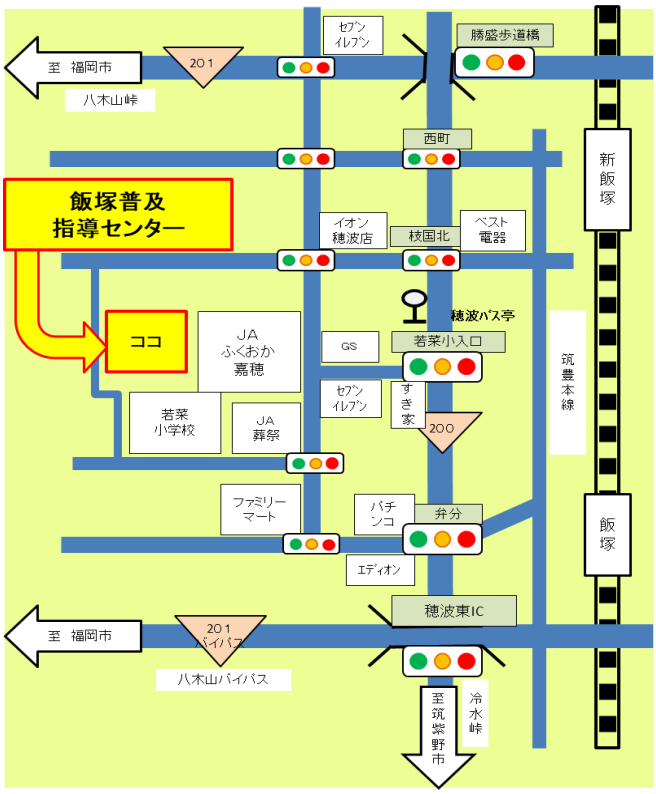
NO.1「担い手の確保と経営発展による地域農業の維持」

NO.2「多様な販売による生産者の確保及び宮若地域の農業の活性化」

・推進班

経営体育成推進班、担い手育成推進班、情報活用推進班、安全・安心農畜産物推進班

周辺地図



庁舎への交通アクセス

車

八木山バイパス「穂波東IC」から約1.2km
「若菜小入口」交差点から約750m

JR

福北ゆたか線飯塚駅または新飯塚駅下車
タクシー約10分

西鉄バス

穂波バス停から徒歩約10分
「若菜小入口」交差点から約500m

福岡県飯塚農林事務所飯塚普及指導センター

〒820-0089　福岡県飯塚市小正 319-1
TEL：(0948) 23-4154　FAX：(0948) 29-4866
E-Mail：iizuka-dlc@pref.fukuoka.lg.jp
HP：https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704804/

福岡県行政資料			
分類番号	所属コード	登録年度	登録番号
PA	4703419	05	0001